



ゲスト VM での VIX スクリプトの実行

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS Director での VIX スクリプトの実行, 1 ページ](#)
- [ゲスト操作 API のサポート, 2 ページ](#)
- [出力表示オプションを有効化した例, 2 ページ](#)
- [出力表示オプションを無効化した例, 9 ページ](#)
- [ゲスト操作 API オプションが有効化されている例, 13 ページ](#)
- [REST API を使用した VIX スクリプトの実行, 17 ページ](#)

Cisco UCS Director での VIX スクリプトの実行

VIX スクリプトは、ゲスト VM で Linux コマンドや Windows コマンドを実行します。Cisco UCS Director には、VIX スクリプト実行用に以下のような方法が用意されています。

- VIX スクリプトの実行タスクは、ゲスト OS 上で Linux または Windows コマンドを実行するために使用します。
- `userAPIExecuteVIXScript` API (JSON ベース) および `EXECUTE_VIX_SCRIPT` API (XML ベース)



(注) ただし、REST API には、以下の制限事項があります。

- 応答にステータスコードだけが表示されます。応答に有効なコマンドの出力が表示されません。
- エラーメッセージを表示するには、`userAPIExecuteVIXScriptWithOutput` コマンドを使用する必要があります。

ゲスト操作 API のサポート

VIX API は、VMware vSphere バージョン 6.0 より後の VMware vSphere バージョンでは廃止されています。VMware vSphere 5.0 以降、VIX API は、VMware vSphere Web サービス SDK に統合されています。

VIX スクリプトの実行タスクは、ゲスト操作 API (VMware vSphere SDK) を使用するオプションをサポートしています。VMware vSphere SDK を使用して Linux および Windows コマンドを実行するには、[ゲスト操作 API の呼び出し (Invoke Guest Operation API)] をオンにします。ゲスト操作 API オプションを有効にすると、VIX の実行スクリプトでは VIX API を呼び出す代わりに自動的に最新のゲスト OS API レイヤーが使用されます。

VMware vCenter バージョン 6.5 VIX コマンドは、新しいゲスト操作 API を使用してサポートされています。vCenter バージョン 6.5 を使用している場合は、このオプションを選択し、すべての既存のワークフローを更新する必要があります。

VMware vCenter バージョン 6.0 VIX コマンドは、VIX API とゲスト操作 API の両方の使用をサポートしています。



(注) [ゲスト操作 API の呼び出し (Invoke Guest Operation API)] チェック ボックスは、VIX スクリプトの実行タスク内で使用されるコマンドまたはスクリプトを変更せずに、VIX API からゲスト操作 API へのアップグレードパスを指定します。

デフォルトでは、ゲスト操作 API は有効ではありません。VIX API が VMware vSphere の将来のリリースで廃止されることを示す警告メッセージが SR ログに表示されます。

サービス リクエストのログの詳細を表示できます。

『[Cisco UCS Director Administration Guide](#)』を参照してください。

出力表示オプションを有効化した例

VIX スクリプトの実行タスクでは、[出力表示 (Output Display)] オプションが使用できます。VIX スクリプトの実行タスクを使用する場合はいつでも、[出力表示 (Output Display)] オプションを有効化できます。

VM での Windows コマンドの実行に対して [出力表示 (Output Display)] オプションを有効にした場合、バッチファイルと出力ファイルが `/opt/infra/vix_temp_files` ディレクトリに作成されます。バッチファイルには、選択された VM で実行されるコマンドが含まれています。コマンドが VM で実行された後、出力ファイルが作成されます。出力ファイルには、バッチファイル実行のステータスコードが含まれています。

VM での Linux コマンドの実行に対して [出力表示 (Output Display)] オプションを有効にした場合、出力ファイルのみ作成されます。出力ファイルには、バッチファイルの実行ステータスコードがキャプチャされます。

以下の例に、[出力表示 (Output Display)] オプションを有効化した状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して Windows VM および Linux VM でコマンドを実行する方法を示します。

単一行の Windows コマンドの実行

この例では、[出力表示 (Output Display)] オプションを有効化した状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して単一行の Windows コマンドを実行します。VM での Windows コマンドの実行に対して [出力表示 (Output Display)] オプションを有効にした場合、バッチファイルが作成されます。バッチファイルには、選択された VM で実行されるコマンドが含まれています。出力ファイルには、バッチ実行のステータス コードがキャプチャされます。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Windows コマンドを入力します。
C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe mkdir C:\\test_Dir_9867
- 4 [出力表示 (Output Display)] をオンにします。

タスクの実行後、ログに以下の情報が表示されます。

```
Service Request ID: 536
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1
Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host:
172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode :0
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 3 seconds
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 3312)
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe mkdir
C:\\test_Dir_9867]
```

```

Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed

```

ログに表示されているように、スクリプトはタスクが正常に実行されたことを意味するステータスコード 0 を返します。

バッチ ファイルは次の場所に作成されます。

```
/opt/infra/vix_temp_files/vixbatch-03_21_2016_10_03_09_835.bat
```

バッチ ファイルの内容は、以下のとおりです。

```
@echo off
mkdir C:\\test_Dir_9867
echo status_code: %ERRORLEVEL%
```

出力ファイルは次の場所に作成されます。

```
/opt/infra/vix_temp_files/vixoutput-03_21_2016_10_03_09_835.txt
```

出力ファイルの内容は、以下のとおりです。

```
status_code: 0
```

複数行の Windows コマンドの実行

この例では、[出力表示 (Output Display)] オプションを有効化した状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して複数行の Windows コマンドを実行します。VM での Windows コマンドの実行に対して [出力表示 (Output Display)] オプションを有効にした場合、バッチファイルが作成されます。バッチファイルには、選択された VM で実行されるコマンドが含まれています。出力ファイルには、バッチファイルの実行ステータスコードがキャプチャされます。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Windows コマンドを入力します。

```
C:\\Windows\\system32\\cmd.exe echo 1sttt file > c:\\One1.txt && echo 2nddd file > c:\\Three.txt
```



(注) 複数行コマンドには && を使用します。複数行コマンドで & はサポートされていません。

- 4 [出力表示 (Output Display)] をオンにします。

タスクの実行後、SR ログに以下の情報が表示されます。

```
Apr 06, 2016 12:06:00 UTC Request Submitted
Apr 06, 2016 12:06:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 06, 2016 12:06:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 06, 2016 12:06:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 06, 2016 12:06:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 06, 2016 12:06:09 UTC Executing custom action VIX2008 (Execute VIX Script)
Apr 06, 2016 12:06:09 UTC Executing custom action VIX2008 (Execute VIX Script)
Apr 06, 2016 12:06:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : vm-DEF-SR119 ,
Host: 172.31.234.85, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode :0
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 3 seconds
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Select VM = 392]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value"]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Script - C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe /c fsutil
file x.txt | echo.hi > C:\\util.txt]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC Completed workflow item number 3
Apr 06, 2016 12:06:13 UTC Completed workflow item number 2, with status completed
```

ログに表示されているように、スクリプトはタスクが正常に実行されたことを意味するステータスコード0を返します。

バッチファイルは次の場所に作成されます。

```
/opt/infra/vix_temp_files/vixbatch-04_07_2016_02_01_34_231.bat
```

バッチファイルの内容は、以下のとおりです。

```
@echo off
echo 1sttt file > c:\\One1.txt && echo 2nddd file > c:\\Three.txt
echo status_code: %ERRORLEVEL%
```

出力ファイルは次の場所に作成されます。

```
/opt/infra/vix_temp_files/vixoutput-04_07_2016_02_01_34_231.txt
```

出力ファイルの内容は、以下のとおりです。

```
status_code: 0
```

エラーコードを指定した Windows コマンドの実行

この例では、[出力表示 (Output Display)] オプションを有効化した状態で、エラーコードを指定し、VIX スクリプトの実行タスクを使用して単一行の Windows コマンドを実行します。VM での Windows コマンドの実行に対して [出力表示 (Output Display)] オプションを有効にした場合、バッチファイルが作成されます。バッチファイルには、選択された VM で実行されるコマンドが含まれています。出力ファイルには、バッチファイルの実行ステータスコードがキャプチャされます。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下の無効な Windows コマンドを入力します。
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe mkdir C:\test_error_code
- 4 [エラーコード (Error Codes)] フィールドに 9009 と入力します。
- 5 [出力表示 (Output Display)] をオンにします。

ユーザが無効なコマンドを渡し、エラーコード (9009) を指定すると、タスクによってユーザの入力したエラーコードが確認され、タスクが失敗します。

```
Service Request ID: 486
```

```
Apr 21, 2016 09:05:00 UTC Request Submitted
```

```
Apr 21, 2016 09:05:03 UTC Executing workflow item number 1
```

```
Apr 21, 2016 09:05:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
```

```
Apr 21, 2016 09:05:09 UTC Executing workflow item number 2
```

```
Apr 21, 2016 09:05:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
```

```
Apr 21, 2016 09:05:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
```

```
Apr 21, 2016 09:05:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
```

```
Apr 21, 2016 09:05:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
```

```
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host: 172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode : 0
```

```
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC Action Execute VIX Script: Task failed with Error Code: 9009 and status message: "mkdir" not recognized as an internal or external command, operable program or batch file
```

```
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC Task: (vix_script (Execute VIX Script) failed with error - Task
```

```

failed with Error Code: 9009 and status message: 'mkkdir'
not recognized as an internal or external command, operable program or batch file. ,
selectedContext=<None>
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) failed after 6 seconds
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC [Local Input: Select VM = 3312]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value"]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC [Local Input: Script - C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe mkkdir
C:\\test_error_code]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC (Local Input: Error Codes = 9009]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 9009]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = 'mkkdir' not recognized as an
internal or external command, operable program or batch file.]
Apr 21, 2016 09:05:13 UTC Completed workflow item number 1, with status failed

```

ログに表示されているように、スクリプトは[エラーコード (ErrorCode)]フィールドに入力された値であるステータスコード9009を返します。

コマンドが無効であるがエラーコードが入力されていなかった場合、ゲストエラーコードとユーザフィールドエラーコードを照合しません。そのため、タスクが成功したと表示されます。以下のように、タスクによって適切なゲストエラーコードが返されます。

```

Service Request ID: 523
Apr 21, 2016 10:05:00 UTC Request Submitted
Apr 21, 2016 10:05:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 21, 2016 10:05:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 21, 2016 10:05:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 21, 2016 10:05:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 21, 2016 10:05:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 21, 2016 10:05:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 21, 2016 09:05:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host:
172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode :0
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
after 3 seconds
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC [Local Input: Select VM = 3312]
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]

```

```

Apr 21, 2016 10:05:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC [Local Input: Script - C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe mkkdir
C:\\test_error_code]
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 9009]
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = 'mkkdir' is not recognized as an
internal or external command, operable program or batch file.)
Apr 21, 2016 10:05:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed

```

単一行の Linux コマンドの実行

この例では、[出力表示 (Output Display)] オプションを有効化した状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して単一行の Linux コマンドを実行します。VM での Linux コマンドの実行に対して [出力表示 (Output Display)] オプションを有効にした場合、出力ファイルが作成されます。出力ファイルには、バッチ実行のステータスコードがキャプチャされます。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Linux コマンドを入力します。
/bin/mkdir /tmp/testdir
- 4 [出力表示 (Output Display)] をオンにします。

タスクの実行後、SR ログに以下の情報が表示されます。

```

Apr 22, 2016 12:06:00 UTC Request Submitted
Apr 22, 2016 12:06:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 22, 2016 12:06:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 22, 2016 12:06:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Executing custom action Vix_script (Execute VIX Script)
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : vm-DEF-SR119 ,
Host: 172.31.234.85, OS Type: red hat enterprise linux 4(32-bit), ExitCode :0

```



```
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 4 seconds
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Select VM = 9801]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value"]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Script - /bin/mkdir /tmp/testdir]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Error Codes = ]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0)
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = )
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
```

ログに表示されているように、スクリプトはタスクが正常に実行されたことを意味するステータスコード 0 を返します。

Windows とは異なり、個別のシェル スクリプトは作成されません。出力ファイルのみ作成されます。出力ファイルは次の場所に作成されます。

```
/opt/infra/vix_temp_files/vixoutput-04_07_2016_10_03_09_835.txt
```

出力ファイルの内容は、以下のとおりです。

```
status_code: 0
```

出力表示オプションを無効化した例

VIX スクリプトの実行タスクで [出力表示 (Output Display)] オプションのマークが外されている場合、コマンドは Windows または Linux VM で直接実行されます。バッチ ファイルや出力ファイルは作成されません。

次の例に、[出力表示 (Output Display)] オプションを有効化していない状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して Windows VM および Linux VM でコマンドを実行する方法を示します。

単一行の Windows コマンドの実行

この例では、[出力表示 (Output Display)] オプションを無効にした状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して単一行の Windows コマンドを実行します。[出力表示 (Output Display)] オプションのマークが外れている場合、Windows コマンドは直接 VM で実行されます。バッチ ファイルや出力ファイルは作成されません。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Windows コマンドを入力します。
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir C:\\test_Dir_1234
- 4 [出力表示 (Output Display)] がオンになっている場合は、オフにします。

タスクの実行後、ログに以下の情報が表示されます。

```
Service Request ID: 458
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1
Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host:
172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode :0
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 3 seconds
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 3312)
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe /c mkdir
C:\\test_Dir_1234]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 3
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 2, with status completed
```

ログに表示されているように、コマンドは VM 上で直接実行されます。

複数行の Windows コマンドの実行

この例では、[出力表示 (Output Display)] オプションを無効にした状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して複数行の Windows コマンドを実行します。[出力表示 (Output Display)] オプションのマークが外れている場合、複数行の Windows コマンドは直接 VM で実行されます。バッチファイルや出力ファイルは作成されません。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Windows コマンドを入力します。

```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir C:\testfolder_line1 &&  
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir C:\testfolder_line2
```

- 4 [出力表示 (Output Display)] がオンになっている場合は、オフにします。

タスクの実行後、ログに以下の情報が表示されます。

```
Service Request ID: 448  
  
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted  
  
Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1  
  
Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed  
  
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2  
  
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called  
  
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)  
  
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)  
  
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.  
  
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host:  
172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode :0  
  
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully  
in 3 seconds  
  
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):  
  
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 3312)  
  
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]  
  
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]  
  
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")  
  
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir  
C:\testfolder_line1 &&  
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir C:\testfolder_line2  
]  
  
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
```

```

Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 3
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 2, with status completed

```

ログに表示されているように、コマンドは VM 上で直接実行されます。

単一行の Linux コマンドの実行

この例では、[出力表示 (Output Display)] オプションを無効にした状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して単一行の Linux コマンドを実行します。[出力表示 (Output Display)] オプションが無効にされている場合、Linux コマンドは直接 VM で実行されます。出力ファイルは作成されません。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Linux コマンドを入力します。

```
/bin/mkdir /tmp/testdir1
```

- 4 [出力表示 (Output Display)] がオンになっている場合は、オフにします。

タスクの実行後、SR ログに以下の情報が表示されます。

```

Apr 22, 2016 12:06:00 UTC Request Submitted
Apr 22, 2016 12:06:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 22, 2016 12:06:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 22, 2016 12:06:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Executing custom action Vix_script (Execute VIX Script)
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : vm-DEF-SR119 ,
Host: 172.31.234.85, OS Type: red hat enterprise linux 4(32-bit), ExitCode :0
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 4 seconds
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):

```

```

Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Select VM = 9801)
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Script - /bin/mkdir /tmp/testdir1]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed

```

ログに表示されているように、Linux コマンドは VM 上で直接実行されます。

ゲスト操作 API オプションが有効化されている例

VIX スクリプトの実行タスクの [ゲスト操作 API の呼び出し (Invoke Guest Operations API)] オプションがオンになっている場合、タスクは VIX API ではなく最新のゲスト OS アクセス API レイヤーを使用します。バッチ ファイルや出力ファイルは作成されません。

以下の例に、ゲスト操作 API オプションを有効化した状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して Windows VM および Linux VM でコマンドを実行する方法を示します。

単一行の Windows コマンドの実行

この例では、ゲスト操作 API オプションを有効化した状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して複数行の Windows コマンドを実行します。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Windows コマンドを入力します。
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir C:\test_Dir_1234
- 4 [ゲスト操作 API の呼び出し (Invoke Guest Operations API)] をオンにします。

タスクの実行後、ログに以下の情報が表示されます。

```

Service Request ID: 458
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1

```

```

Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Invoking Guest Operations API
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - Completed executing guest command
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Command invoked with Exit Code :0
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host:
172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode :0
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 3 seconds
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 3312]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe /c mkdir
C:\\test_Dir_1234]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 3
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 2, with status completed

```

ログに表示されているように、コマンドはゲスト操作 API を使用して実行されます。

複数行の Windows コマンドの実行

この例では、ゲスト操作 API オプションを有効化した状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して複数行の Windows コマンドを実行します。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。

3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Windows コマンドを入力します。

```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir C:\\testfolder_line1 &&
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir C:\\testfolder_line2
```

4 [ゲスト操作 API の呼び出し (Invoke Guest Operations API)] をオンにします。

タスクの実行後、ログに以下の情報が表示されます。

```
Service Request ID: 448
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1
Mar 21, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Mar 21, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Mar 21, 2016 10:03:09 UTC Invoking Guest Operations API
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - Completed executing guest command
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Command invoked with Exit Code :0
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host:
172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode :0
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 3 seconds
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 3312)
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir
C:\\testfolder_line1 &&
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe /c mkdir C:\\testfolder_line2
]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 3
Mar 21, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 2, with status completed
```

ログに表示されているように、コマンドはゲスト操作 API を使用して実行されます。

単一行の Linux コマンドの実行

この例では、ゲスト操作 API オプションを有効化した状態で、VIX スクリプトの実行タスクを使用して複数行の Windows コマンドを実行します。

UCS Director アプライアンスで利用可能な VIX スクリプトの実行タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Linux コマンドを入力します。
/bin/mkdir /tmp/testdir1
- 4 [ゲスト操作 API の呼び出し (Invoke Guest Operations API)] をオンにします。

タスクの実行後、SR ログに以下の情報が表示されます。

```
Apr 22, 2016 12:06:00 UTC Request Submitted
Apr 22, 2016 12:06:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 22, 2016 12:06:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 22, 2016 12:06:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Executing custom action Vix_script (Execute VIX Script)
Apr 22, 2016 12:06:09 UTC Invoking Guest Operations API
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [VIXActionHandler] - Completed executing guest command
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Command invoked with Exit Code :0
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : vm-DEF-SR119 ,
Host: 172.31.234.85, OS Type: red hat enterprise linux 4(32-bit), ExitCode :0
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 4 seconds
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Select VM = 9801)
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Script - /bin/mkdir /tmp/testdir1]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
```



```
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Apr 22, 2016 12:06:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
```

ログに表示されているように、コマンドはゲスト操作 API を使用して実行されます。

REST API を使用した VIX スクリプトの実行

次の例に、REST API を使用して VM で Windows または Linux コマンドを実行する方法を示します。

- userAPIExecuteVIXScript
- EXECUTE_VIX_SCRIPT
- userAPIExecuteVIXScriptWithOutput

userAPIExecuteVIXScript API を使用した Windows コマンドの実行

この例では、userAPIExecuteVIXScript API タスクを使用して Windows コマンドを実行します。この API の制限は、応答にステータス コードだけが表示され、出力メッセージが表示されないことです。

UCS Director アプライアンスで利用可能な userAPIExecuteVIXScript API タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [URL の生成 (Generate URL)] をクリックし、以下のパラメータを入力します。

```
/app/api/rest?formatType=json&opName=genericvm:userAPIExecuteVIXScript&opData=
{param0:642,param1:"administrator",param2:"cloupia345",param3:"C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe
mkdir C:\\test_Dir"}
```



(注)

- ここで、param0 は VM ID、param1 と param2 は VM の管理者クレデンシャル、param3 は Windows コマンドになります。
- API コマンドに「\」が含まれている場合は、4つのバックスラッシュを使用します。サービス要求 (SR) ログでスクリプトを確認します。

- 4 [REST API の実行 (Execute REST API)] をクリックします。

コマンドが有効な場合、以下の応答が表示されます。

```
{ "serviceResult":126, "serviceError":null, "serviceName":"InfraMgr",
"opName":"genericvm:userAPIExecuteVIXScript" }
```

コマンドが正常に実行されると、SR ログに以下の情報が表示されます。

```
Service Request ID: 445
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host:
172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode : 0
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 6 seconds
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 642)
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe mkdir
C:\\test_Dir]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
```

ログに表示されているように、スクリプトはタスクが正常に実行されたことを意味するステータスコード 0 を返します。

コマンドが無効な場合 (C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe testxml のような不正なコマンドを入力した場合など)、ステータスコードによって適切なエラーコードが SR ログに返されます。

```
Service Request ID: 445
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
```

```

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host:
172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode :0
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
after 6 seconds
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 642]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value"]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe testxml]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Error Codes = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 9009]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = 'testxml' is not recognized as
an internal or external command, operable program or batch file.)]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
    
```

このサンプルでは、ステータス コード 1 は未知のエラーを意味します。

userAPIExecuteVIXScript API を使用した Linux コマンドの実行

この例では、userAPIExecuteVIXScript API タスクを使用して Linux コマンドを実行します。この API の制限は、応答にステータス コードだけが表示され、出力メッセージが表示されないことです。

UCS Director アプライアンスで利用可能な userAPIExecuteVIXScript API タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [URL の生成 (Generate URL)] をクリックし、以下のパラメータを入力します。

```

/app/api/rest?formatType=json&opName=genericvm:userAPIExecuteVIXScript&opData=
{param0:279,param1:"root",param2:"cloupia345",param3:"/bin/mkdir /temp/test1"}
    
```



(注) ここで、param0 は VM ID、param1 と param2 は VM のルートクレデンシャル、param3 は Linux コマンドになります。

4 [REST API の実行 (Execute REST API)] をクリックします。

コマンドが有効な場合、以下の応答が表示されます。

```
{ "serviceResult":81, "serviceError":null, "serviceName":"InfraMgr",
  "opName":"genericvm:userAPIExecuteVIXScript" }
```

コマンドが正常に実行されると、SR ログに以下の情報が表示されます。

```
Service Request ID: 495
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName :SDK-VIX, Host
:172.29.110.75 , OS Type :red hat enterprise linux 5 (64-bit), ExitCode :0
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 6 seconds
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 279]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - /bin/mkdir /temp/test1]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed
```

ログに表示されているように、スクリプトはタスクが正常に実行されたことを意味するステータスコード 0 を返します。

コマンドが無効な場合 (///abcd/test/123 のような不正なコマンドを入力した場合など)、ステータスコードによって適切なエラーコードが SR ログに返されます。

```
Service Request ID: 495
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
```

```

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName :SDK-VIX, Host
:172.29.110.75 , OS Type :red hat enterprise linux 5 (64-bit), ExitCode :0
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 3 seconds
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 279)
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - ///abcd/test/123]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 9009]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = 'abcd/test/123' is not recognized
as an internal or external command, operable program or batch file.)]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed

```

このサンプルでは、ステータス コード 1 は未知のエラーを意味します。

EXECUTE_VIX_SCRIPT API を使用した Windows コマンドの実行

この例では、EXECUTE_VIX_SCRIPT API タスクを使用して Windows コマンドを実行します。この API の制限は、応答にステータス コードだけが表示され、出力メッセージが表示されないことです。

UCS Director アプライアンスで利用可能な EXECUTE_VIX_SCRIPT API タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Windows コマンドを入力します。
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe mkdir C:\test_xml_api
- 4 [REST API の実行 (Execute REST API)] をクリックします。

コマンドが有効な場合、以下の応答が表示されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<cuicOperationResponse>
  <Log>
    <Messages>1</Messages>
    <Message>
      <TimeStamp>2016-04-26 08:11:26.864</TimeStamp>
      <Severity>INFO</Severity>
      <Text>[VIXActionHandler] - account details VMName :SDK-VIX, Host :172.29.110.75
, OS Type :microsoft windows server 2008 r2 (64-bit), ExitCode:0</Text>
    </Message>
  </Log>
  <operationStatus>0</operationStatus>
  <response>
    <ExecuteVIXScriptResponse>
      <EXIT_STATUS_CODE>0</EXIT_STATUS_CODE>
    </ExecuteVIXScriptResponse>
  </response>
  <responsemap>
    <entry>
      <key>ERROR_STATUS_CODE</key>
      <value>0</value>
    </entry>
  </responsemap>
</cuicOperationResponse>
```

応答に表示されているように、ステータス コードはコマンドが正常に実行されたことを意味する 0 を返します。

コマンドが無効な場合 (C:\WINDOWS\system32\cmd.exe testxml のような不正なコマンドを入力した場合など)、ステータス コードによって適切なエラー コードが [応答 (Response)] フィールドに返されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<cuicOperationResponse>
  <Log>
    <Messages>1</Messages>
    <Message>
      <TimeStamp>2016-04-26 03:12:29.864</TimeStamp>
      <Severity>INFO</Severity>
      <Text>[VIXActionHandler] - account details VMName :SDK-VIX, Host :172.29.110.75
, OS Type :red hat enterprise linux 5 (64-bit), ExitCode:0</Text>
    </Message>
  </Log>
  <operationStatus>0</operationStatus>
  <response>
    <ExecuteVIXScriptResponse>
      <EXIT_STATUS_CODE>9009</EXIT_STATUS_CODE>
      <ERROR_STATUS_MESSAGE>"testxml" is not recognized as an internal or external
command, operable program or batch file.</ERROR_STATUS_MESSAGE>
    </ExecuteVIXScriptResponse>
  </response>
  <responsemap>
    <entry>
      <key>ERROR_STATUS_CODE</key>
      <value>0</value>
    </entry>
    <entry>
      <key>ERROR_STATUS_MESSAGE</key>
      <value></value>
    </entry>
  </responsemap>
</cuicOperationResponse>
```

このサンプルでは、ステータス コード 1 は未知のエラーを意味します。

EXECUTE_VIX_SCRIPT API を使用した Linux コマンドの実行

この例では、EXECUTE_VIX_SCRIPT API タスクを使用して Linux コマンドを実行します。この API の制限は、応答にステータス コードだけが表示され、出力メッセージが表示されないことです。

UCS Director アプライアンスで利用可能な EXECUTE_VIX_SCRIPT API タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [スクリプト (Script)] フィールドに、以下のサンプル Linux コマンドを入力します。
/bin/date
- 4 [REST API の実行 (Execute REST API)] をクリックします。

コマンドが有効な場合、以下の応答が表示されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<cuicOperationResponse>
  <Log>
    <Messages>1</Messages>
    <Message>
      <TimeStamp>2016-04-26 03:11:26.864</TimeStamp>
      <Severity>INFO</Severity>
      <Text>[VIXActionHandler] - account details VMName :SDK-VIX, Host :172.29.110.75
, OS Type :red hat enterprise linux 5 (64-bit), ExitCode:0</Text>
    </Message>
  </Log>
  <operationStatus>0</operationStatus>
  <response>
    <ExecuteVIXScriptResponse>
      <EXIT_STATUS_CODE>0</EXIT_STATUS_CODE>
      <ERROR_STATUS_MESSAGE></ERROR_STATUS_MESSAGE>
    </ExecuteVIXScriptResponse>
  </response>
  <responsemap>
    <entry>
      <key>ERROR_STATUS_CODE</key>
      <value>0</value>
    </entry>
    <entry>
      <key>ERROR_STATUS_MESSAGE</key>
      <value></value>
    </entry>
  </responsemap>
</cuicOperationResponse>
```

応答に表示されているように、ステータス コードはコマンドが正常に実行されたことを意味する 0 を返します。

コマンドが無効な場合、ステータス コードによって適切なエラー コードが [応答 (Response)] フィールドに返されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<cuicOperationResponse>
  <Log>
    <Messages>1</Messages>
    <Message>
```

```

        <TimeStamp>2016-04-26 03:11:26.864</TimeStamp>
        <Severity>INFO</Severity>
        <Text>[VIXActionHandler] - account details VMName :SDK-VIX, Host :172.29.110.75
, OS Type :red hat enterprise linux 5 (64-bit), ExitCode:0</Text>
    </Message>
</Log>
<operationStatus>0</operationStatus>
<response>
    <ExecuteVIXScriptResponse>
        <EXIT_STATUS_CODE>1</EXIT_STATUS_CODE>
        <ERROR_STATUS_MESSAGE></ERROR_STATUS_MESSAGE>
    </ExecuteVIXScriptResponse>
</response>
<responsemap>
    <entry>
        <key>ERROR_STATUS_CODE</key>
        <value>0</value>
    </entry>
    <entry>
        <key>ERROR_STATUS_MESSAGE</key>
        <value></value>
    </entry>
</responsemap>
</cuicOperationResponse>

```

このサンプルでは、ステータス コード 1 は未知のエラーを意味します。

userAPIExecuteVIXScriptWithOutput API を使用した Windows コマンドの実行

この例では、userAPIExecuteVIXScriptWithOutput API を使用して Windows コマンドを実行します。userAPIExecuteVIXScriptWithOutput API を使用して Windows コマンドを実行すると、API によって以下のものが作成されます。

- 出力ファイル（ファイル拡張子 .txt）（ファイルパス ロケーション /opt/infra/vix_temp_files）。
- ワークフロー タスクの入力パラメータと出力変数の一覧を表示する入出力レポート。
- バッチ コマンドを確認するバッチ ファイル（ファイル拡張子 .bat）（Windows VM のみ）。

UCS Director アプライアンスで利用可能な userAPIExecuteVIXScriptWithOutput API タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [URL の生成 (Generate URL)] をクリックし、以下のパラメータを入力します。

```

/app/api/rest?formatType=json&opName=genericvm:userAPIExecuteVIXScriptWithOutput&opData=
{param0:247,param1:"administrator",param2:"cloupi123",param3:"C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe
echo hi"}

```




(注)

- ここで、param0 は VM ID、param1 と param2 は VM の管理者クレデンシャル、param3 は Windows コマンドになります。
- 複数行コマンドの場合、\n で各行を分割します。次に例を示します。

```
/app/api/rest?formatType=json&opName=genericvm:userAPIExecuteVIXScriptWithOutput&opData={param0:247,param1:"administrator",param2:"cloupiat23",param3:"C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe echo hi\n echo this is secondline"}
```

4 [REST API の実行 (Execute REST API)] をクリックします。

コマンドが有効な場合、以下の応答が表示されます。

```
{ "serviceResult":126, "serviceError":null, "serviceName":"InfraMgr", "opName":"genericvm:userAPIExecuteVIXScriptWithOutput" }
```

コマンドが正常に実行されると、SR ログに以下の情報が表示されます。

```
Service Request ID: 435
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host: 172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode : 0
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully in 6 seconds
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 247)
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script -
/app/api/rest?formatType=json&opName=genericvm:userAPIExecuteVIXScriptWithOutput&opData={param0:247,param1:"administrator",param2:"cloupiat23",param3:"C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe echo hi"}
]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
```

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed

ログに表示されているように、スクリプトはタスクが正常に実行されたことを意味するステータスコード 0 を返します。

ワークフロータスクの入力パラメータと出力変数（ステータスコードとステータスメッセージ）の一覧を表示する入出力レポートも API によって作成されます。

無効な Windows コマンドが userAPIExecuteVIXScriptWithOutput API で送信されると、SR ログに次のようなレポートが表示されます。

Service Request ID: 435

Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted

Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1

Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2

Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName : Win_2k12 , Host: 172.31.234.46, OS Type: microsoft windows server 2012 (64-bit), ExitCode :0

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully in 9 seconds

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 247]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value"]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script -
/app/api/rest?formatType=json&opName=genericvm:userAPIExecuteVIXScriptWithOutput&opData={param0:247,param1:"administrator",param2:"clouplia123",param3:"C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe whatsapp"}
]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script =]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes =]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 9009]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = 'whatsapp' is not recognized as an internal or external command, operable program or batch file.)]

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 1, with status completed

ログに表示されるように、該当するステータスコードと、コマンドが無効であるというエラーメッセージがスクリプトによって返されます。同じエラーステータスコードとエラーステータスメッセージが、入出力レポートにも表示されます。

APIによって次の場所にバッチファイルが作成されます。

```
/opt/infra/vix_temp_files/vixbatch-04_07_2016_02_01_34_231.bat
```

APIによって次の場所に出力ファイルが作成されます。

```
/opt/infra/vix_temp_files/vixoutput-04_07_2016_02_01_34_231.txt
```

userAPIExecuteVIXScriptWithOutput API を使用した Linux コマンドの実行

この例では、userAPIExecuteVIXScriptWithOutput API を使用して Linux コマンドを実行します。

UCS Director アプライアンスで利用可能な userAPIExecuteVIXScriptWithOutput API タスクに、以下の情報を入力します。

- 1 VIX スクリプトを実行する VM を選択します。
- 2 VM の管理者クレデンシャルを入力します。
- 3 [URL の生成 (Generate URL)] をクリックし、以下のパラメータを入力します。

```
/app/api/rest?formatType=json&opName=genericvm:userAPIExecuteVIXScriptWithOutput&opData={param0:244,param1:"root",param2:"cloupiat123",param3:"/bin/date"}
```



(注) ここで、param0 は VM ID、param1 と param2 は VM の管理者クレデンシャル、param3 は Linux コマンドになります。

- 4 [REST API の実行 (Execute REST API)] をクリックします。

コマンドが有効な場合、以下の応答が表示されます。

```
{ "serviceResult":228, "serviceError":null, "serviceName":"InfraMgr", "opName":"genericvm:userAPIExecuteVIXScriptWithOutput" }
```

コマンドが正常に実行されると、SR ログに以下の情報が表示されます。

```
Service Request ID: 491
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1
Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2
Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)
Apr 19, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.
```

```

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName :SDK-VIX, Host
:172.29.110.75 , OS Type :red hat enterprise linux 5 (64-bit), ExitCode :0

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 6 seconds

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 244]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value"]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - /bin/date}
]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Local Input: Error Codes = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Output display = true]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 0]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = ]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 2, with status completed

```

ログに表示されているように、スクリプトはタスクが正常に実行されたことを意味するステータスコード 0 を返します。

ワークフロータスクの入力パラメータと出力変数（ステータスコードとステータスメッセージ）の一覧を表示する入出力レポートも API によって作成されます。

無効な Linux コマンド（「abcd」など）が userAPIExecuteVIXScriptWithOutput API で送信されると、SR ログに次のようなレポートが表示されます。

```

Service Request ID: 491

Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Request Submitted

Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Executing workflow item number 1

Apr 19, 2016 10:03:03 UTC Completed workflow item number 0, with status completed

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing workflow item number 2

Apr 19, 2016 10:03:00 UTC Trigger context executeWorkflowStep called

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC Executing custom action vix_script (Execute VIX Script)

Apr 19, 2016 10:03:09 UTC VIX API will be deprecated in future release.

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [VIXActionHandler] - account details VMName :SDK-VIX, Host
:172.29.110.75 , OS Type :red hat enterprise linux 5 (64-bit), ExitCode :0

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)) completed successfully
in 9 seconds

Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Input/Output values for Task#1 (vix_script (Execute VIX Script)):
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Select VM = 244]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Credential type = Login]

```

```
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Login = administrator]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Password = "masked-value")
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Script - abcd}
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC [Local Input: Undo Script = null]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: EXIT_STATUS_CODE = 127]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC (Output: ERROR_STATUS_MESSAGE = sh:abcd: command not found]
Apr 19, 2016 10:03:13 UTC Completed workflow item number 2, with status completed
```

ログに表示されるように、該当するステータスコードと、コマンドが無効であるというエラーメッセージがスクリプトによって返されます。同じエラーステータスコードとエラーステータスメッセージが、入出力レポートにも表示されます。

